

OMNIBUS

大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書室報

C O N T E N T S

内視鏡医の夢〔樋口和秀〕	2
大野病院事件が語るもの〔大道正英〕	3
心を潤す絵本〔佐藤真由美〕	4
出張報告〔植田浩行〕	5
本学教職員著作寄贈	6
お知らせ	7
図書館業務日誌	8
編集後記	8



狛犬

内視鏡医の夢

樋口和秀

私は、医者になってから27年になるが、その間、内視鏡を専門とし臨床の第一線で行ってきた。医師は、さまざまな病気を診断・治療するために、新しい診断機器や診断方法、治療法や新薬を開発してきた。そのひとつに、どうにかして体の中を観察したい、“内視”が医師の夢としてクローズアップされてきた。内視鏡は、もともと、膀胱鏡などできるだけ体外から近距離で見られる分野から発展してきた。直腸鏡や膣鏡などはほぼ同時期に始まったものと考えられる。そこで、次の段階の夢が、口からもっと奥の胃をどうにかしてみたいということである。当時、大道芸人が刀を口から飲み込む芸があったが、これを応用し、喉を直線化すれば、硬い棒状の内視鏡を患者さんにすることができるということで行われた。



(図1)

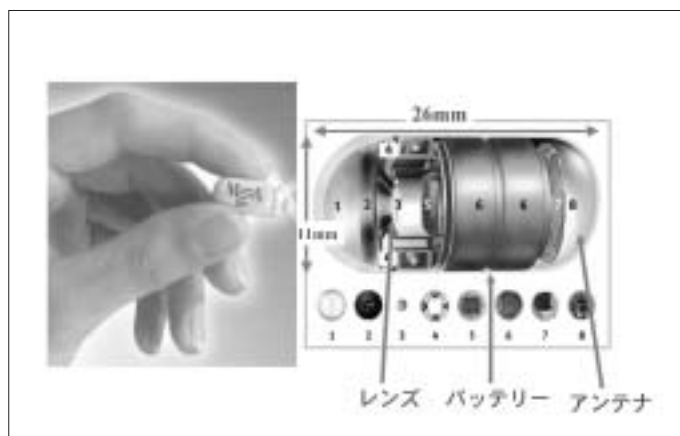
まっすぐで曲がらない硬性鏡からやわらかい軟性鏡に変化したのが、やはり患者さんにとっては、大変な検査であった。



(図2)

その後、いわゆる胃カメラの時代に移って行く。NHKのプロジェクトXでも放送されたが、胃カメラの開発では日本が全世界をリードしていた。暗室で患者さんに内視鏡を挿入し、シャッターを押すと患者さんの胃が光る、これで、どの辺の写真を撮っているかの目安をつけて一通りの写真を撮り、後で、現像し診断する。非常に原始的であるが、開発されてくる過程では、この技術でもも

ちろん驚くべき進歩であった。これらの繰り返しで、現在の内視鏡が開発されてきたのである。
2000年には、有名なNature誌にカプセル型内視鏡が発表された。



(図3)

これまで内視鏡医だけではなく人類の夢でもあった小型内視鏡が発明された。食道・胃は口から、大腸は肛門から内視鏡をすることで観察することができたが、その間の小腸はほとんど見られなかった。いま臨床応用されているカプセル内視鏡は、人間の消化管の蠕動に任せて進みながら自動的に1秒間に2枚ずつ写真が撮れる仕組みになっている。いままで暗黒の世界といわれていた小腸を内視鏡で観察できるようになったことは患者さんにとって非常に恩恵は大きい。皮肉にもイスラエルの軍事産業から開発されてきた代物である。近い将来、体外からコントロールできるカプセル内視鏡が開発されると思うが、大阪医大の消化器内科は龍谷大学の理工学部と共同で世界に先駆け開発している。大きな夢を持って、また、その夢を実現すべく日々努力している。

(ひぐち・かずひで 内科学Ⅱ教授)

大野病院事件が語るもの

大道正英

初めに、亡くなられた患者様とその遺族に対して哀悼の意を表します。

この事件については産婦人科医界のみならず、全医療界および国民がその結果に注目している中、担当医に無罪の判決が確定して当然とは言え安堵した所である。事件は社会に色々の問題を投げかけた。この事件の概略は、前置胎盤のために帝王切開を施行したが、胎盤の癒着が強く、この胎盤を剥離施行中に大量出血を来たし妊婦が死亡したのである。

検察側は出血が死因と断定した。そして癒着胎盤と判った時点で剥離を中止して子宮摘出すれば大量出血を避けられたと主張した。一方、担当医は剥離時出血していてもそれを完了して子宮収縮による止血を図る、臨床上標準的な医療処置を選択したと主張した。さらに異常死に対する医師法第21条違反か否かも争われた。

この事件に関しては、幾つかの問題提起がされた。第一には、真剣に医療を行っている医師が正しいと信じて行った医療行為を罪に問われ、業務上過失致死容疑で逮捕拘留されたことである。診療の医学的内容まで警察・検察が踏み込んだ是非、ある確率でおこる不可避な結果にまで刑事責任を問われるなら、医療は成り立たず現場は萎縮診療になりかねないし、ひいては産科医不足を助長

することにもなる。

第二には、医師法第21条の異常死に対する疑義解釈である。第21条の異常死については医師に警察への届出を義務づけていたが、今回の事件を機に患者が治療を受けている疾病で死亡した場合は該当しないと決まり、以前よりやや具体化された。

今後はこの判決を機に医療を行う医師と受ける患者が相互の理解に努め、溝を埋めて行く方向に進まないといけない。そのためには厚労省が進めようとしている医療安全調査委員会(医療事故調)を立ち上げ、調査と刑事手続との関係を法制化する必要がある。

日本医師会も云うように、医療の管理を今までのように刑事司法が行うのではなく、専門家である医師自らが行える様な仕組みを作るべきである。具体的には医療過誤の疑いがあったり、死因の説明がつかない死亡例があると、医療事故調に報告を一本化し、悪質と見られる医療過誤のみ医療事故調から警察に通知する事が望ましい。一方遺族による捜査機関への告訴告発の権利は妨げないものの、捜査機関は医療事故調の判断を尊重した捜査を行う事で、死因の原因究明と再発予防に努める体制作りに繋がると思われる。

このように大野事件を教訓に、医療界の更なる改善と発展を期待したい。

(おおみち・まさひで 産婦人科学教授)

心を潤す絵本

佐藤 眞由美

小児看護の学会に出席した時、絵本をテーマに柳田邦男氏の講演を何度か聴いたことがある。柳田氏は、子どもたちの現状として、物が豊富になった現代では親が子の欲しいものはすべて買い与え、子は与えられるのが当然で努力して何かを得る事をしない。長時間テレビゲームに耽っているうちに、ボタンひとつで自分がすべてをコントロールしている気持ちになってしまう。携帯電話やインターネットの普及につれて親と子、子と子が目を見て話し合い、体をぶつけ合って感情を表現することがなくなり、愛着関係が作りにくくなった。そこで多くの大人が子どもの心を理解する力をなくしている今こそ、大人が絵本を読み心に潤いを持って子どもと接する必要がある。また絵本は子どもが唯一コントロールできるメディアであり、子どもに対する絵本の読み聞かせは、言語力の発達、感性・感情の発達、文脈理解力、肉声・スキンシップを伴ったリアルな母子関係・父子関係を育むことになると話されていた。一つひとつの言葉に納得しながら聞いていたが、話の中で聖路加国際病院小児総合医療センター長で、「がんの子供を守る会」の副理事長である細谷医師の体験例があった。いよいよ子どもの状態が悪くなった時にその子どものきょうだいに「わすれられないおくりもの」の絵本を細谷医師は読んだ。その絵本は年老いたアナグマが亡くなった後、森の仲間に残してくれたものがあったという深いお話だが、子どもの心に一番響くのは意外にも、天国へと続くトンネルをアナグマが杖を捨て、若い頃に駆け抜けていく場面であったと話されていた。これを聞いた時にそうなのかな？と細谷医師ではないが意外な感じがした。しかし、甥が5歳のときに飼っているハムスターのクーちゃんの元気がなくなりその時この絵本を読み聞かせをすることを母親に勧めた。その数日後にクーちゃんが亡くなり甥はかなり落ち込んだ。その後甥は時折この絵本を読んで一人涙していた。それから数ヶ月後に幼稚園のお友達の飼っているウサギのミミちゃんが亡くなり落ち込んでいるお友達に甥は「クーちゃんと一緒にミミちゃんはどうしんどくないんだよ。長い長いトンネルを出て、元気にご飯も食べてミミちゃんはびよんびよんしてるんだよ」と話し、そのお友達もそれから少しずつ元気を取り戻したと聞いた。私自身もそうだが大人はアナグマ

が自分に残してくれたものを大事にしようこの物語からメッセージを受け取る。しかし子どもは、最も気がかりなのは大好きな人や動物が苦しんでいる姿であり、人や動物が自分の大好きな元気な姿で過ごしていることを想像し亡くなることは苦しくない、天国では元気に過ごせるんだというメッセージを受け取り、気持ちの整理を子どもなりにしている。絵本って、子どもってすごいなと心から感動した。

私も絵本を読み心に潤いを持たなければ…！ 私の大好きな絵本は、「あいしてる—岡本太郎の絵本」「しろいうさぎとくろいうさぎ」「わすれられないおくりもの」「だいじょうぶだよ、ゾウさん」などがある。機会があれば皆さんもぜひお読み下さい。

(さとう・まゆみ 看護専門学校教員)

出張報告

第15回医学図書館研究会・継続コースに参加して

植田 浩行

11月5日から7日にかけて関西医科大学滝井キャンパスで開催された第15回医学図書館研究会・継続コースに出席しました。今回の医学図書館研究会は「医歯薬系図書館が未来に志向するもの」をテーマに開催され、5日と6日の午前中に行われた研究会では11題の研究発表が発表されました。

- 5日 研究発表1「大学医学図書館における蔵書構築方針」
研究発表2「東京慈恵会医科大学学術情報センターにおける洋図書購入選定の取り組み」
研究発表3「病院施設職員のための卒後研修企画に沿った蔵書構築～看護分野についての試案～」
研究発表4「奈良県立医学附属図書館における闘病記文庫の設置」
研究発表5「東京医科大学病院『患者さま図書室』について」
研究発表6「どうすれば伝わるのか—効果的な広報とは？
『日経BP記事検索サービス 大学版』での実践を通して」
特別講演 「グルメの代償～食品媒介寄生虫疾患について～」
- 6日 研究発表7「愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センターにおけるパスファインダー作成の事例～委託スタッフと選任職員との連携による効果的なサービスの提供を求めて～」
研究発表8「教養教育における文献検索講習会の試み」
研究発表9「関西医科大学における業績データベースの構築」
研究発表10「信州大学附属図書館医学部図書館の地域関連病院への新サービスの取り組み」
研究発表11「2つの調査からみる医学図書館の一般公開と患者サービスの留意点」

各研究成果の発表終了後に質疑応答が行われました。研究発表を通じて各大学図書館とも財政面などあらゆる面できりまく環境が厳しくなる中、より一層の創意工夫をしてクオリティの高いサービスを提供できるよう尽力されていることが伝わり、本館がこれから利用者に有意義な情報を提供する業務を遂行していく上で非常に参考になるものばかりでした。

初日の研究発表終了後に関西医科大学公衆衛生学教授の西山先生による特別講演が行われ、日々

の食生活において発症するかもしれない、寄生虫が原因となる疾患についてお話をさせていただきました。

6日午後と7日に行われた継続教育コースでは、コース1が「NBM(Narrative-based Medicine)と図書館の関わり」、コース2が「電子化出版物のアーカイビング」をテーマに計4コマの講義が行われました。

6日 継続教育1-1 「患者主体の医療を支援する『Narrative Based Medicine 資料の特徴
—医学図書館におけるNBM資料提供の意義と位置づけ—』」

継続教育1-2 「患者の語りが生み出すもの—闘病記とDIPExの持つ力—」

7日 継続教育2-1 「海外電子ジャーナルの利用と課題（アーカイビング）」

継続教育2-2 「学術情報流通における電子アーカイビングの意味」

NBM資料とは患者やその家族が病気や障害を抱えながら生活して向き合ってきた視点から記述された資料のことで具体的に闘病記や介護記などがそれに該当し、またDIPEx (Database of Individual Patient Experience) はオックスフォード大学が作成した患者自身が自らの病気や医療を受けた経験について語る「健康と病に関する語りのデータベース」でWEB上で公開されているものです。継続教育コース1ではこれら一種の医療情報と図書館との係わり合いについて講義されました。また継続教育コース2では、昨今冊子体の商業雑誌に取って代わりつつある電子ジャーナルが活用されるようになった流れとそのアーカイビング（利用できる状態での永続的保存）の問題について講義されました。

今回3日間に及ぶ講習会を受講して、図書館を取り巻く環境の著しい変化にきちんと対応していく必要性を痛感させられました。

一図書館員として、医療に携わる人たちに必要不可欠な情報を提供できるように今後更に精進していきたいと思います。

(うえだ・ひろゆき 和書・和雑誌係)

本学教職員著作寄贈

(平成20年5月～平成20年11月分)

杉山 哲也 先生(眼科学) 寄贈日:2008年9月4日

留学:杉山哲也句集/杉山哲也著 2008.8 ゆるり書房

黒岩 敏彦 先生(脳神経外科) 寄贈日:2008年10月31日

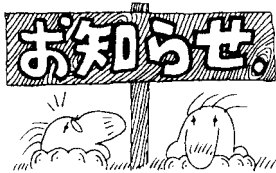
ナースの脳神経外科学/黒岩敏彦編著 2008.10 中外医学社

小林 正直 先生(救急医療部) 寄贈日:2008年10月31日

DVDで学ぶカンタン!救急蘇生:胸骨圧迫&AED完全マスター/西本泰久、小林正直、石見拓監修 2008.9 学習研究社

大阪医科大学第二内科学教室 寄贈日:2008年10月31日

勝健一教授退任記念業績集CD-ROM/大阪医科大学第二内科学教室 2008.3 大阪医科大学第二内科学教室



1. 教養図書展示コーナーを始めました

2008年7月より、読書に親しんでいただくために教養図書展示コーナーを始めました。図書館地下書庫に所蔵されている旧さわらぎ分室所蔵の図書資料を中心に、テーマを設けて3カ月毎に展示いたします。

1回目2008年7月～2008年9月のテーマは「旅」でした。2回目2008年10月～2008年12月のテーマは「食」です。旧さわらぎ分室所蔵のブルーボックス等も同時に展示いたしますので、ご利用ください。



1回目「旅」



2回目「食」

2. ブラウジングコーナーの雑誌を刷新について

ブラウジングコーナーで現在購入している雑誌は、「AERA」「アスキー」「栄養と料理」「時刻表」「きょうの健康」「News Week（日本語版）」「月刊レジデント」「旅」「週刊新潮」「日経PC21」「Mac Fan」「Number」「Pen」「English Journal」「Ku:nel」「ヤマケイJoy」の16点です。その他、寄贈のニューズペーパーや、出版目録などもおいていますので、気分転換にご利用ください。

なお、このコーナーの雑誌は新しい号が到着すると、前号は地階書庫に移動し、一年たつと廃棄します。廃棄するものはゲート外に置いていますので、ご自由にお持ち帰りください。

3. ゴミ箱の撤去につきまして

図書館内のごみ箱を11月10日（月）以降、撤去することとなりましたのでお知らせいたします。

これはあくまでも自分で持ち込んだ物等から生じたゴミは、自分で持ち帰るということで、ご理解とご協力をお願いいたします。

図書館業務日誌

- 平成20年 6月
- 23日 (月) ハワイ大学 留学生当館見学
図書館合同運営委員会・PDC
A委員会 (於、図書館館長室)
- 27日 (金) サンメディアセミナー 館員出席
(於、ヒルトン大阪ホテル)
- 7月
- 25日 (金) 富士通図書館システムセミナー
館員出席 (於、富士通関西支社)
- 28日 (月) 図書館合同運営委員会・PDC
A委員会 (於、図書館館長室)
- 8月
- 11日 (月) ～15日 (金) 時間外休館
- 9月
- 5日 (金) R I C H O図書館システムセミナー
館員出席 (於、ヒルトン
プラザ大阪)
- 10日 (水) ～12日 (金)
図書館等職員著作権実務講習会
館員出席 (於、京都大学)
- 17日 (水) 公私立大学図書館コンソーシアム
館員出席 (於、大阪市立大
学)
- 19日 (金) 日本医学図書館協会ワークショ
ップ 館員出席 (於、兵庫医療
大学)
- 24日 (水) 電子ジャーナルコンソーシアム
説明会 館員出席 (於、大阪市
立大学)
- 29日 (月) 図書館合同運営委員会・PDC
A委員会 (於、図書館館長室)
- 10月
- 27日 (月) 図書館合同運営委員会・PDC
A委員会 (於、図書館館長室)
- 11月
- 5日 (水) ～7日 (金)
図書館研究会・継続教育コース
館員参加 (於、関西医科大学)
- 20日 (木) 日本医学図書館協会地区例会
館員参加 (於、京都大学)
- 25日 (火) 図書館合同運営委員会・PDC
A委員会 (於、図書館館長室)
図書館将来構想実施委員会
- 12月
- 22日 (月) 図書館合同運営委員会・PDC
A委員会 (於、図書館館長室)

編 集 後 記

医学図書館は日々進化していかなければなりません。本年11月からは図書館将来構想実施委員会
が新たに活動を始めました。図書館の教育・研究・診療に関与する部分は情報社会の中、益々その
重要度を増しています。

平成22年度からは大阪医科大学に新しく保健看護学部が開設予定です。それに伴い4年制大学と
しての看護関係図書資料の充実を図っていく必要があります。

2009年も取り組まなければいけない課題が山積しています。

図書館では皆様の投稿記事を歓迎いたします。OMNIBUSに対するご意見もお寄せ願います。

(門田)

OMNIBUS「大阪医科大学図書館報／大阪医科大学附属看護専門学校図書室報」

No.34号 2008年12月15日 発行

編集・発行 大阪医科大学図書館

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL (072) 683-1221

(内線2799, 2621)

印刷 大日本印刷株式会社